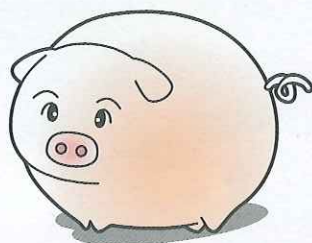


家畜ふん堆肥の特性

堆肥施用 の効果

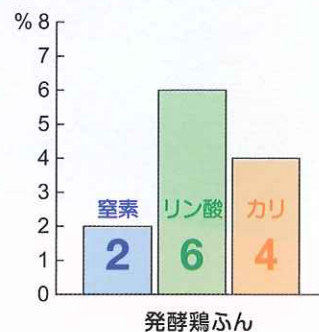
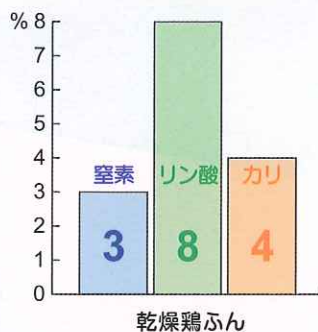
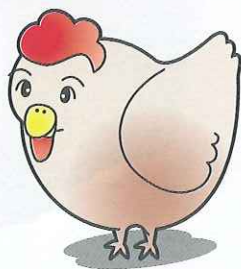
- 作物に必要な多くの栄養分を供給します。
(窒素、リン酸、カリの多量要素だけでなく、鉄、亜鉛、銅、マンガン、ホウ素などの微量元素も供給します)
- 土壌の団粒構造が形成され、透水性、保水性、通気性が高まります。
- 肥料成分を保持する力が高まります
- 土壌中の微生物が多くなり、土壌病害虫の抑制が期待できます。

豚ふん堆肥について



- ▶ 肥料成分は、牛ふん堆肥より多く、鶏ふんよりやや少ないものが多いです。
- ▶ 肥料効果は、鶏ふんよりやや緩やかです。
- ▶ 牛ふんより分解しやすく、肥料効果も期待でき、バランスがとれて使いやすい堆肥です。
・施用量目安 0.3~0.5t/10a (0.3~0.5kg/m²)

乾燥鶏ふんおよび発酵鶏ふん(鶏糞堆肥)について



- ▶ 分解が早く、肥料効果としては即効性があり、肥料成分も多めです。
- ▶ 乾燥鶏ふんと発酵鶏ふんがありますが、乾燥の方が、窒素・リン酸を多く含みます。
- ▶ 乾燥鶏ふんは土中で急激に分解して、植物の根に障害を起こすことがあるので、土壌と十分に混和し、施用してから作物の作付けまでにできれば1ヶ月程度は土に馴染ませましょう。
- ▶ 消石灰などの強アルカリ資材と同時施用すると、アンモニアガスを生じて作物に障害を与える場合がありますから、注意しましょう。
・施用量目安 【乾燥】0.2~0.3t/10a (0.2~0.3kg/m²) 【発酵】0.5t/10a (0.5kg/m²)